

# 復活

# ろうそく一本

昔の小網町には、ハロウインのような行事がありました。



カタチを変えて、地域の子供行事として復活

# 10/10

SAT 14:00~16:00頃まで  
12時時点で降雨の場合中止  
終了後 17:00 神事後「子供相撲」  
が開催されます。

**集合** 小学5・6年生は午後1時に入鹿神社境内に集合

小学4年生以下のお子様や  
幼児連れの方は安全を考慮して、  
自宅又は、神社周辺より  
巡行に合流して下さい。

巡行による道中は、  
保護者の方も安全見守りに、  
ご協力をお願いします。

**ろうそく1本おくれんげ**  
子供達が「ろうそく1本おくれんげ」  
と言って町内を回ります。  
子供達の声が聞こえたら、表に出て、  
100円程度の市販のお菓子あるいは  
小銭をあたえてあげて下さい。



## ろうそく1本のいわれ

いつ頃始まったかは不明だが、昭和の終わりころまで小網町の入鹿神社の氏子達が氏神の神事を行う「宮座」という行事があった。

宮座は当番制で、今年当番の家「本座」と昨年当番を務めた「送座」と、来年当番を迎える「迎座」の3名が、年間の神事全ての準備や運営に携わっていた。

10月の氏神様の大祭(秋祭り)の前に、座祭を開催して、氏神様(蘇我入鹿御神体)を入鹿神社本殿から神主の先頭で氏子全員が行列をなして本座の家に迎え、神事を行い、神事が終われば又神主の先導で氏子全員で御神体を入鹿神社本殿に収めた。

その氏神様の送り迎えは夜間暗くなってから行われ、氏子は提灯を掲げて夜道を送り迎えをした。

「ろうそく1本」はこの座祭での氏神様の送り迎え時の提灯に掲げるろうそくを町民から集めることを目的に行われたが、後ほどには子供のお楽しみ行事として変形し開催されていた期間もあった。上記のように秋祭りの行事ではなく、宮座の座祭の関連行事として行われていた。

宮神事の服装は、本座・送座・迎座の3名が白装束で袴(かみしも)を着用するという正装で行われた。その3名が中心となって迎春準備の神社のしめなわや門松を付けたり、正月14日の大とんど、6月4日の野神祭、10月20日の座祭などの行事を営んでいた。

「ろうそく1本」は日本の古い慣わしの「ろうそくもらい」が転じて小網町では座祭の前に行われたと考えられる。火を灯して神様を敬う為の大切な準備。それが「ろうそく1本」の真髄だったと思う。ある意味アメリカのハロウィンと酷似している。

「ろうそく1本」の詳細は、ホームページ「正蓮寺大日堂」→「小網町の伝統行事」でご覧下さい。